

希少な生き物を見守り、共に生きていく

# 希少猛禽類を調査・保全する技術

## 「調査圧」ってご存知ですか？

猛禽類は警戒心が強いいため、実は調査員自体を警戒し避けて行動します。これを私たちは『調査圧』と呼んでいます。調査圧を与えると、彼らの行動圏を正確に把握できず、事業による影響などを正しく評価できません。

私たちは、鷹匠から猛禽類の正常行動と異常行動を識別する技を学び、必要に応じ車内観察を行うなど、調査圧を与えないように配慮しています。

### 定点観察



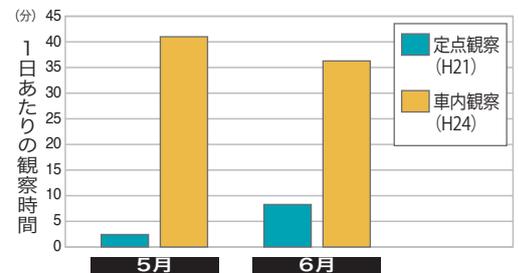
調査員が直接観察するので、できる限り目立たない服装で実施。

### 車内観察



調査員は車内から観察、さらにブラインドで人の気配を消すことで、調査圧を低減。

### 観察結果の比較



ある事業で、2つの手法でオジロワシを観察したところ、車内観察のほうが長時間観察でき、警戒心を抑えることが実証されました。

## 猛禽類と共に生きていくために行っていること

私たちは、猛禽類と共に生きていくために、開発などで失われたオオタカやハヤブサなどの営巣場所を創出するため、人工巣を製作・設置しています。また、利用状況をモニタリングし、必要な措置をとれるようにリアルタイムで映像を確認できるカメラの設置などにも取り組んでいます。



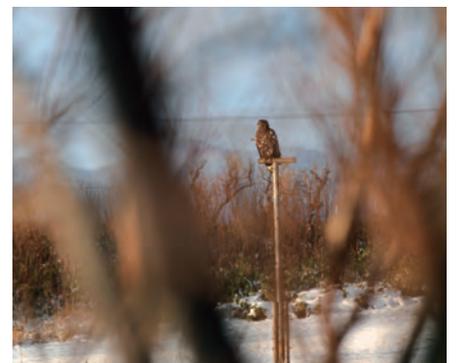
### 〈代替巣の設置〉

営巣環境や営巣木の条件を解析し、適地に人工巣を設置。これまでにオオタカ、ハヤブサの人工巣を製作・設置しました。



### 〈とまり防止ワイヤー設置〉

橋梁におけるロードキル対策として、とまり防止のためのワイヤーを設置。本数、間隔、張り具合で効果が異なります。



### 〈代替とまり木の設置〉

事業によってとまり木が失われたため、餌場の近くにとまり木を設置。目的に応じて高さ、太さ、向きなどを変えます。

